

館報まっさき

**がんばろう
末崎!**
津波なんかに
負けない!

学校統合の今

末崎中学校と大船渡中学校の学校統合の進捗状況は、現在の段階にあるのか、ご報告いたします。

第1回大船渡・末崎地区学校統合協議会は8月28日市防災観光交流センターで開催され、はじめに末崎地区の要望を大船渡地区に伝える形となった。末崎地区としては、①大船渡地区と対等な立場で協議すること。②統合時期は、平成33年4月とする。③統合の方式は、新設とすること。④統合の方式は、新設とすること。⑤校名も新しくすることなど理由を説明しながら要望した。大船渡地区としては、対等な立場での協議は勿論のこと、時期についても、平成33年4月以降であれば問題（異議）はない。ただし、統合の方式については、大船渡町民（地域住民）の意向は編入統合を望んでいることから、持ち帰って検討したいとなった。

第2回合同協議会は、10月30日市防災観光交流センターで開催された。大船渡地区より課題であった統合方式については、新設統合でいいが校名は「大船渡」でお願いしたいとの強い意向が示された。末崎地区としては、「校名も新しくすること」を望んでいたが、「即答はできかねる」として持ち帰って検討することにした。末崎地区では、11月21日、末崎地区学校統合協議会を開き、大船渡地区が求める「大船渡」という校名について協議した。「大船渡」となれば、いくら新設統合だとしても、外見上、あるいは対外的に見ても大船渡に吸収され、編入統合としか受け取られない。「大船渡」以外に「大船渡地区」に受け入れてもらいう校名を挙げて提案してはどうか、ということになり、次回までに委員それぞれが望ましい校名を考えてきて協議することにした。

つづいて、12月10日、2回目の末崎地区学校統合協議会を開き、各委員が考えてきた校名を出し合った。望ましい校名を2、3に絞り込むことにしていたが、できなかった。それなら全部出して、その中から望ましい校名を大船渡地区に選んでいただくほうがいいのではないかと、なった。ただし、その前に、校名を「変えなければならない。そのためには新校名にする意味を述べ、説得する（理解を得る）」しかないとなった。

末崎地区学校統合協議会長は12月12日、協議結果および「新校名にする意味」を記して、教育長はじめ教育委員会事務局に報告。直ちに、教育長と教育委員会事務局が大船渡地区学校統合協議会長に出向き、末崎の意向を伝え理解を求めるとともに統合を前に進める対応にあたった。

今後の予定は、1月24日大船渡・末崎地区学校統合合同協議会を開催し、

統合方式の決定と学校統合推進協議会への移行確認および説明を行う。校名等については推進協議会で決めることとなった。

水道法改正について考える

市町村が所有する水道施設の所有権はそのまま自治体に残り、運営権を民間に委託する「コンセッション方式」の導入を進める水道法の改正が先日の国会で可決された。

なぜ、水道事業の運営を民間に委託するのか。それは①水道事業を経営する市町村の3分の1が給水費用を使用料（料金収入）で賄えない状態にあるといわれる。人口減少により年々使用料が減少しているからである。②施設や設備が老朽化していること。1970年頃、敷設された水道管は、すでに法定耐用年数40年を超え、漏水や破損事故が発生しており、その更新が急がれること。③市町村にとつては、専門職員の確保が必要となり人員削減できなくなる。などが要因として挙げられる。

しかし、水は住民の生命に直結する。それだけに、運営を民間に委ねていいものか、深く考えねばならない。民間に運営権が委託されれば、民間企業は利潤を追求することから常に採算性を考える。収入減になれば、料金の値上げを求める。費用が掛かるとなれば老朽化した施設等の修理修繕交換等も先延ばしされる可能性がある。その結果水質汚染を招くなどサービス低下が懸念される。災害時には十分対応できないリスクがある。などが考えられる。諸外国においても、民営化が水質悪化などのサービス低下をもたらすケースや相次ぐ値上げで大きな社会問題になったところもあつた。世界33か国の267都市で水道事業が再び公営化されている状況からしても、いま何故、民営化なのか、や資金力を活用することによって運営の効率化が期待できると説明する。人の命にかかわる水資源の管理という公共性の高い水道事業のあり方を運営の効率化に重きを置いて考えていいのだろうか、もう一度立ち止まって考えてほしいのである。

水道事業は果たして民間企業になじむのか、ひとたび事故があつた場合誰が責任をとるのか、とれるのか。疑念は払拭されない。人々が地域で安心して暮らせる第一の条件は、水の安定供給である。いま、岩手の雫石町で起きている水問題を見れば、どうあるべきか、容易にわかる。

この命を支える水だけは、市町村（公共団体）が責任を持って事業を運営し、住民の命と生活を守ってほしいのである。

末崎町の石碑・祠・神社(17)

お地蔵さん(地蔵菩薩)について ~ その6

(5) 「縛られ地蔵」について その1

前記④、船河原、雷神社境内に、古い石の上にたまご形の丸石の二面を切った石が乗っていて、どんな神様を祀っているか不思議に思っていました。大船渡市史を調べたところ、これらしいものを見つけました。市史に載っていた写真には、この碑に荒縄がぐるぐる巻かれていました。

写真の説明に「地蔵尊。ここにも祈りと願望がある。荒縄で縛り付けたのにはどんな意味があるのだろうか。」と添えられていました。縛(しば)られ地蔵であるとわかりました。

1) 大岡政談の「縛られ地蔵」

縛られ地蔵の由来について、インターネットで調べたところ次のようなことが書かれていました。

『享保年間八代将軍徳川吉宗の世。ある夏の昼下がり、日本橋のある呉服問屋の手代が荷車に反物を満載して南蔵院の門前を通りかかった。ここで一服と門前に車を止め境内の銀杏の木陰に涼をとる内についてウトウトとひと眠りしてしまった。

目が覚めて見ると、さあ大変門前に置いた車がない、青くなって番所へ訴えた。そこで当時奉行の聞こえ高い大岡越前守忠相の直々の取り調べとなった。(次号につづく)



船河原 雷神社境内のお地蔵様、大船渡市史 第五巻 四百十頁から転載

本年度も左記の通り行います。皆さんふるってご参加ください。

練習日 1月11日(金)から毎週金曜日

時間 午前10時～12時まで

場所 ふるさとセンター体育館

参加料 無料

大会予定 2月22日(金)

その他 ルールは簡単、誰でも初心者大歓迎です。

★「新年書初め会」の参加者募集イベント

目的 子供から大人まで新年を寿ぎ、新たな気分で筆をとりましょう。

＊抱負や意気込み願ひ事等

＊新年の思いを言葉に込めて、心豊かに筆をとりましょう。

＊字形(上手下手)にこだわらず、気持ちを投入するかどうか大切ですよ。

＊小、中学生のみなさん、冬休みの宿題にどうぞ。お手伝いします。

日時 平成31年1月4日(金)13時～15時

場所 ふるさとセンター和室

主催 末崎長寿会(長寿書道会)

講師 現日会審査員・陸奥書道会審査員 今野雲上氏

対象 子供から大人まで

持参 筆・墨汁・ぶんちん・すずり

・下敷等。

参加料 無料

書初展 2月中旬に、市立博物館市民ギャラリーに展示します。

申込み 12月末日までに菊池平八郎あて電話で連絡を

☎29-2270

★「パソコン・スマホ相談」

日時 1月12日(土) 13時～16時

場所 ふるさとセンター 2階会議室

パソコン・スマホ操作でお困りの方、さらにレベルアップを図りたい方、どうぞおいで下さい。

★「草月流生け花」教室

1月はお休み致します。